

薬剤部で DX！ アンプルピッカーが変える調剤業務の未来

◇DX とは

皆さんは、「デジタルトランスフォーメーション (DX)」をご存じでしょうか。

DX とは、“デジタル技術を活用してビジネスモデルや組織全体を根本的に変革し、新たな価値を創出する取り組み”を指します。現在この DX 化の波は、医療現場にも広がってきています。当院の薬剤部でも、こうした時代の流れに応じて DX 化に取り組むことにしました。

◇薬剤師業務の課題

薬剤師の仕事の一つである調剤業務（薬を処方せんの通りに取りそろえること）は、一見すると単純な作業の繰り返しのように思われるかもしれませんが、しかし、当院薬剤部では多くの薬を扱っており、その中には名称の似ている薬、同じ薬であっても用量や濃度の異なる薬、内服・外用・注射のような剤形が違う薬といった見た目や名称の紛らわしいものが多数存在します。こうした中でも薬の取り違えは重大な医療事故へと繋がりがかねないため、細心の注意を払う必要があります。当院では、調剤ミスを未然に防ぐために複数名による確認体制を徹底することで、その安全性を確保してきました。

一方で、近年の医療現場では「働き方改革」が進み、薬剤師もまた労働時間の適正化が進められています。さらに薬剤師は、病棟業務や他の医療職との連携、副作用モニタリングなど多様で臨床的な役割が求められるようになっていきます。限られた時間の中で、安全かつ的確に業務を遂行していくためには、作業の効率化と質の維持を同時に実現する仕組みが必要不可欠です。

◇アンプルピッカー導入のメリット

この課題を解決すべく導入したのが、注射薬自動払い出し機「アンプルピッカー」です（図 1）。アンプルピッカーは、電子カルテの注射薬処方せんのデータを取り込み、自動で注射調剤を行う機械です。

自動調剤なので、薬の名前や規格を間違える心配はありません。また、アンプルピッカーに薬を補充するときは、注射薬についているバーコードを認証するシステムを使っており、入れ間違いを防ぐ工夫が施されています。

さらに、調剤業務の自動化により、薬を取りそろえる時間が削減されました。調剤は機械に任せて、薬剤師は薬剤監査（処方せんの内容が、患者さんに有効かつ安全であるか確認すること）により多くの時間を使うことが可能になりました。

結果として、人的資源は薬剤師でなければできない業務に焦点を絞ることができ、病棟業務、チーム医療への参画など、他の重要な業務にも注力できるようになりました。



図 1 アンプルピッカー

◇おわりに

医療 DX は、単なる機械化、自動化ではなく、限られた資源を最適に配分し医療従事者が本来果たすべき役割に集中できる環境を整えることだと考えます。

当院のアンブルピッカー導入は、薬剤部全体の業務の質を底上げする大きな一歩となりました。今後もテクノロジーの力を活用しながら、患者さん一人ひとりのニーズに応えられる質の高い医療を提供していきたいと考えます。